

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人クリエイティブ・あいち
代表者・役職名 氏名 長岡 修平 理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

南海トラフ大地震に備える防災・減災シンポジウム

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2008年の派遣切りによる生活困窮者の救済支援の為に任意団体を設立。2年に渡り支援活動を実施の後、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の支援の為、震災直後より活動を開始しました。その活動を関係各所に理解、信頼を得て、活動の幅を広げるためにNPO法人化しました。現在15名の会員と共に活動しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

震災で学んだことを、愛知県内にて南海トラフ大地震に備えてもらう為に、今回申請するシンポジウムも含めて様々な活動を行ってまいりました。平成27年10月には同様のシンポジウムを真如苑様の助成により名古屋市にて開催することが出来ました。活動を継続していく中で参加者の方々からの各地域での開催要望の声が増えている現状もありますが、特に強い希望があったのが豊橋市です。最大クラスの地震が起こった場合の想定津波高は19mにも及ぶと言われ、当団体のシンポジウムで一人でも多くの命を救うきっかけになればと考えております。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

宮城県石巻市の被災者でもあるNPO法人DoTankみやぎの方々にお越しいただき、DoTankみやぎが出演している3.11東日本大震災ドキュメンタリー映画『Pray For Japan～心をついに～』を上映し、震災直後の様子を理解していただきます。上映後に、震災から6年経った被災地の現状、震災が起こる前に備えるべきことについて講演を行い、ディスカッションを通じて、愛知県の防災・減災意識を、より高めてまいります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

豊橋市では地震への防災に係るイベントは頻繁に行われていると聞きましたが、当団体のシンポジウムの強みでもある、現地で震災を体験し、実際に避難所生活、避難所運営や各避難所、企業、施設などに支援を行ってきた方たちが語る話は他には無く、説得力があるとのことで、もう一度豊橋市で開催していただきたいとお声をいただきました。今回参加出来なかった方々をもっと集めたいとのことです。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

シンポジウムを開催するとまたやって欲しいとの声と、他の地域でもやってほしいとの声をいただきます。声に応えるべく当団体も短期間のスパンで開催出来る環境づくりを行っていくことが課題と想っています。今後の展望としては、30年以内でいつ来るか分からないと言われている南海トラフ大地震。人々の防災・減災への意識の糸が切れないうよう継続して活動を続けていき、一人でも多くの方の意識向上と継続で展望が開けると考えております。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

参加
無料

第6回

がんばろう!石巻

南海トラフ大地震に備える防災・減災シンポジウム

3・11の悲劇を繰り返さないために、石巻からの警鐘

震災前の大川小学校

川から押し寄せた津波

震災後の大川小学校

有名な門脇地区の看板

記憶の街模型復元プロジェクトin大川



基調講演：遠藤 学氏プロフィール

NPO法人DoTankみやぎ理事長 昭和49年石巻市生 東北大学大学院法学研究科博士課程後期中退(法学修士) 市民活動歴15年以上。国際政治学から地域コミュニティの再生を急務と感じ、震災以前から石巻のまちづくり活動へ。3.11東日本大震災では、石巻で被災し、避難所経験をしながらも、他の避難所の救援活動に始まり、復興活動継続中。独立行政法人福祉医療機構シンポジウム、法政大学、神奈川大学、成蹊大学、愛知県立大学、野田市郷土博物館、市外・県外講演多数。

被災体験講演：永沼 悠斗氏プロフィール

平成6年宮城県石巻市生まれ(旧河北町)大川地区長岡出身 石巻市立大川小学校、大川中学校卒業、東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科「失われた街」模型復元プロジェクト記憶の街ワークショップin大川地区実行委員(広報担当)現在は東北福祉大学に在籍しており、防災と福祉を掛け合わせたまちづくり、障がい者や高齢者について学び福祉事業所、デイサービスの避難マニュアルや避難訓練をマネジメントしている。故郷は危険区域に指定され、集団移転先に移転する。現在も仮設住宅で生活しており今年で7年目を迎える。語り部活動をしており、地域の良さを伝えたいと思い行動している。東日本大震災での被災経験を伝承していくことで一つでも多くの命が救われることを目標に活動している。



2017年11月11日(土)

9:30開場 10:00~13:30

場所

豊橋市民センターカリオンビル
6階多目的ホール 定員99名
(豊橋市松葉町2丁目63番地)



シンポジウム プログラム

10:10~
震災ドキュメンタリー映画
PRAY FOR JAPAN
~心を一つに~上映
11:15~
基調講演 遠藤 学氏
12:00~
被災体験講演 永沼 悠斗氏
12:40~
質疑応答
※上映、講演後休憩あり

主催

NPO法人クリエイティブ・あいち

<http://creative-aichi.wix.com/creative-aichi>

特別協力

NPO法人DoTankみやぎ

<http://npo-dtm.com/>

NPO法人日本心理カウンセラーズ連盟

<http://www.lepetitcourage.com/>

豊橋市民センター

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/8653.htm>

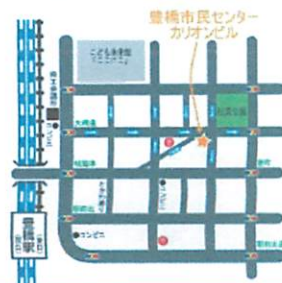
後援

愛知県 豊橋市 豊橋市社会福祉協議会

お問い合わせ

長岡 080-5120-1317 creativeaichi@gmail.com

豊橋市民センター 0532-56-5141



本事業は、真如苑「shinjo プロジェクト」市民防災・減災助成を受けて実施しています。